



第59期 中間報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

日本アビオニクス株式会社

証券コード：6946

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第59期上半期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）の事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、原材料価格の高騰、サブプライムローン問題に伴う金融不安の高まりなどにより減速傾向が高まりました。

このような事業環境の中で当社グループは、新製品としてななめ横から投映してもゆがみなく表示できることから置く場所の自由度を高めたプロジェクトや電子部品の高信頼性溶接が可能で、海外の異なる電圧に対応できるインバータ式抵抗溶接電源等を発売するとともに民需部門の営業体制を見直し、販売店との連携を強化するなど受注、売上の確保に努めました。

その結果、当上半期における連結業績は、受注高が15,820百万円（前年同期比2.3%減）、売上高に関しては、携帯電話等に需要が急増している超小型水晶振動子向けの製造装置が大きく伸長したものの、情報システム製品のプロジェクトの端境期により14,627百万円（前年同期比19.5%減）となりました。

損益に関しましては、売上高の減少に伴い経常損失236百万円となり、会計基準の変更によりたな卸資産評価損259百万円を特別損失に計上した結果、中間純損失575百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、金融不安の世界的な広がりとその起因した景況感の悪化や民間設備投資の抑制などから厳しい状況となることが予想されます。

当社グループといたしましては、今年2月に発表いたしました中期経営計画ののっとり、引き続き市場創造型企業への転換を目指して、情報システム事業はコア事業として堅持し、独自技術と高い市場シェアを有する赤外線機器および接合・検査機器を中心として民需事業を成長させていきます。

なお、中間配当につきましては、まことに遺憾ながら見送らせていただきました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わりなきご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成20年12月

代表取締役執行役員社長

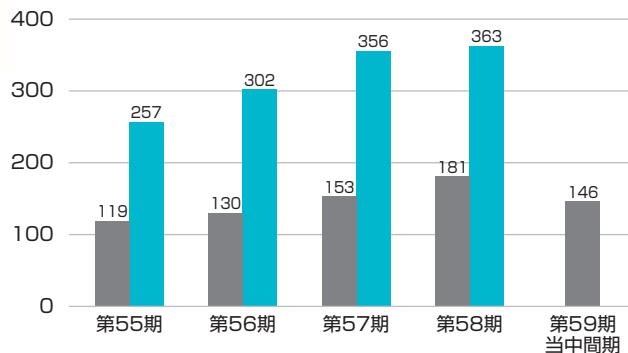
鈴木俊一

連結財務ハイライト

連結売上高推移

(単位：億円)

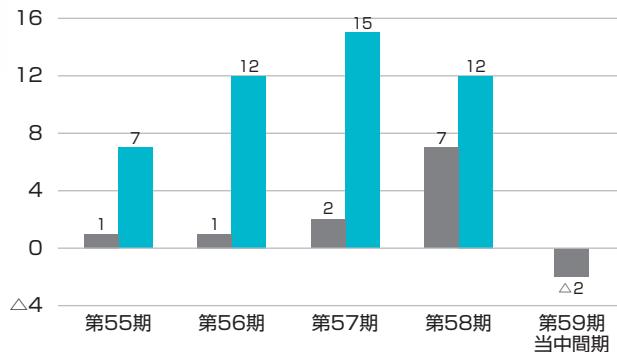
■ 中間期
■ 通期



連結経常利益推移

(単位：億円)

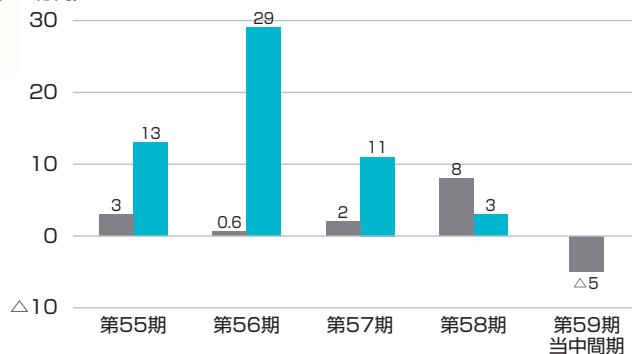
■ 中間期
■ 通期



連結純利益推移

(単位：億円)

■ 中間期
■ 通期



部門別の概況

●連結部門別受注高●

部門	前中間期 (19.4.1~19.9.30)		当中間期 (20.4.1~20.9.30)		前期 (19.4.1~20.3.31)	
	受注高	構成比	受注高	構成比	受注高	構成比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
情報システム製品	6,454	39.9	7,349	46.4	14,927	42.9
電子装置製品	5,854	36.1	4,455	28.2	10,977	31.6
製造装置製品	3,888	24.0	4,014	25.4	8,889	25.5
合計	16,197	100.0	15,820	100.0	34,794	100.0

●連結部門別売上高●

部門	前中間期 (19.4.1~19.9.30)		当中間期 (20.4.1~20.9.30)		前期 (19.4.1~20.3.31)	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
情報システム製品	9,244	50.9	5,712	39.1	17,419	47.9
電子装置製品	5,104	28.1	4,273	29.2	10,782	29.7
製造装置製品	3,824	21.0	4,641	31.7	8,157	22.4
合計	18,173	100.0	14,627	100.0	36,359	100.0

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■情報システム部門



主要製品：誘導・搭載関連装置、表示・音響関連装置、
指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC

情報システム製品は、プロジェクトの端境期のため、前年同期に比較して売上高は大幅に減少しました。

情報システム部門連結売上高推移



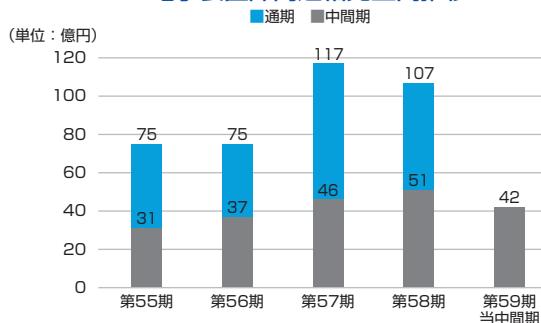
■ 電子装置部門



主要製品：映像機器、赤外線機器、情報端末機器、工業計測機器

電子装置製品は、景気減速の影響を受け、前年同期に比較して売上高は減少しました。

電子装置部門連結売上高推移



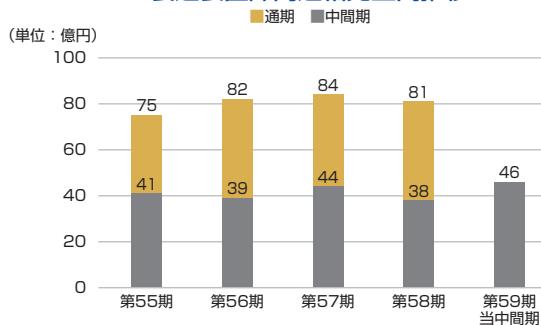
■ 製造装置部門



主要製品：製造・検査機器、プリント配線板

製造装置製品は、携帯電話等に需要が急増している超小型水晶振動子を製造するシーム溶接装置が好調だったため、前年同期に比較して売上高は増加しました。

製造装置部門連結売上高推移



連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期 別			科目	期 別		
	前中間期 平成19年9月30日現在	当中間期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在		前中間期 平成19年9月30日現在	当中間期 平成20年9月30日現在	前 期 平成20年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	22,411	19,323	21,962	流動負債	19,368	14,252	17,620
現金および預金	1,516	1,584	1,781	支払手形および買掛金	6,637	4,841	6,240
受取手形および売掛金	8,853	7,116	9,478	短期借入金	9,160	5,830	7,750
製 品	705	438	788	賞 与 引 当 金	-	862	-
半 製 品	340	298	239	製 品 保 証 引 当 金	106	142	203
原 材 料	2,897	2,815	2,900	そ の 他	3,464	2,576	3,426
仕 掛 品	6,820	6,054	5,677	固定負債	4,918	7,781	6,451
そ の 他	1,308	1,030	1,131	長期借入金	840	3,270	2,215
貸倒引当金	△ 29	△ 15	△ 35	再評価に係る繰延税金負債	1,321	1,321	1,321
固定資産	11,382	10,952	11,111	退職給付引当金	2,756	3,186	2,914
有形固定資産	8,691	8,272	8,378	そ の 他	-	2	-
建物および構築物	2,295	2,175	2,198	負債合計	24,286	22,033	24,071
土 地	4,847	4,847	4,847	(純資産の部)			
そ の 他	1,547	1,249	1,332	株主資本	7,698	6,433	7,192
無形固定資産	435	376	422	資 本 金	5,145	5,145	5,145
投資その他の資産	2,256	2,304	2,310	利 益 剰 余 金	2,562	1,298	2,056
前払年金費用	1,466	1,555	1,519	自 己 株 式	△ 9	△ 10	△ 9
そ の 他	920	878	922	評価・換算差額等	1,809	1,809	1,809
貸倒引当金	△ 130	△ 129	△ 130	土地再評価差額金	1,809	1,809	1,809
資産合計	33,794	30,276	33,074	純資産合計	9,507	8,243	9,002
				負債純資産合計	33,794	30,276	33,074

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売 上 高		18,173	14,627	36,359
売 上 原 価		13,735	11,016	27,493
売 上 総 利 益		4,437	3,610	8,865
販売費および一般管理費		3,627	3,759	7,364
営業利益または営業損失(△)		810	△ 148	1,501
営業外収益		58	59	97
貸倒引当金戻入額		2	21	—
その他の		56	37	97
営業外費用		147	147	338
支払利息		121	105	231
その他の		26	41	107
経常利益または経常損失(△)		721	△ 236	1,259
特別損失		6	271	806
たな卸資産廃棄損		—	—	767
たな卸資産評価損		—	259	—
固定資産除却損		6	12	38
税金等調整前中間(当期)純利益または税金等調整前中間純損失(△)		714	△ 507	453
法人税等		△ 141	67	103
中間(当期)純利益または中間純損失(△)		855	△ 575	350

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,430	1,045	3,972
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 296	△ 194	△ 536
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 3,144	△ 1,048	△ 3,180
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)		△ 9	△ 197	255
現金及び現金同等物の期首残高		1,526	1,781	1,526
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,516	1,584	1,781

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要

(平成20年9月30日現在)

商号 日本アビオニクス株式会社
英文商号 Nippon Avionics Co., Ltd.
設立 昭和35年4月8日
資本金 51億45百万円
従業員数 1,331名(連結)
730名(単独)

証券コード 6946

役員の状況 取締役

代表取締役	取締役	取締役	取締役	取締役	取締役	取締役
				鈴木	木田	俊一
				井田	来周	敏三
				根来	木延	三男
				鈴木	石川	俊樹
				石川	山下	守

(注) 山下守氏は、社外取締役であります。

監査役

監査役(常勤)	津田好美
監査役(常勤)	祝宏文
監査役	渡谷和行
監査役	山本徳男

(注) 監査役のうち渡谷和行および山本徳男の両氏は、社外監査役であります。

執行役員

執行役員社長	鈴木俊一
執行役員専務	井田敏
執行役員常務	根来周三
執行役員常務	鈴木木延三男
執行役員	石川俊樹
執行役員	田口多可夫
執行役員	川島雅幸
執行役員	関芳雄
執行役員	露木満
執行役員	大久保研二

(注) ※の執行役員は取締役を兼務しております。

拠点および事業所

日本アビオニクス株式会社

本社

東京都品川区西五反田八丁目1番5号

横浜事業所

横浜市瀬谷区本郷二丁目28番2

相模事業所

神奈川県高座郡寒川町小谷二丁目1番1号

府中支店

東京都府中市府中町一丁目10番地の3

名古屋支店

名古屋市中区丸の内三丁目17番6号

大阪支店

大阪市淀川区西中島一丁目11番16号

福岡支店

福岡市博多区博多駅中央街8番36号

甲府営業所

山梨県南アルプス市宮沢568番地

行田営業所

埼玉県鴻巣市赤見台二丁目5番3号

子会社

山梨アビオニクス株式会社

山梨県南アルプス市宮沢568番地
(プリント配線板の製造)

福島アビオニクス株式会社

福島県郡山市待池台一丁目20番地
(ハイブリッドIC、電子装置製品等の製造)

日本アビオニクス販売株式会社

東京都品川区西五反田八丁目1番5号
(電子装置製品等の販売)

NEC Avio赤外線テクノロジー株式会社

東京都品川区西五反田八丁目1番5号
(赤外線機器、工業計測機器の製造、販売)



株式の状況

(平成20年9月30日現在)

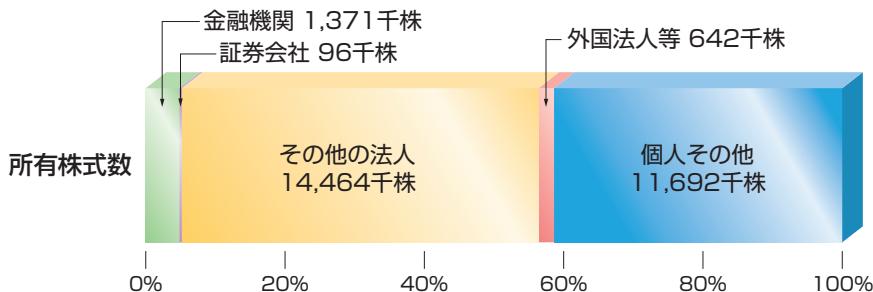
(1) 発行可能株式総数	普通株式	80,000千株
	第1種優先株式	76,000千株 4,000千株
(2) 発行済株式の総数	普通株式	29,100千株
	第1種優先株式	28,300千株 800千株
(3) 株主数	普通株式	3,943名
	第1種優先株式	1名

(注) 第1種優先株式は、日本電気株式会社が全株所有しております。

(4) 大株主の状況（普通株式上位10名）

株主名	所有株式数	持株比率
	千株	%
日本電気株式会社	14,151	50.00
日本アビオニクス従業員持株会	534	1.89
株式会社三井住友銀行	441	1.56
住友信託銀行株式会社	249	0.88
チェースマンハッタンバンクジーティーエスクライアントアカウントエスクロウ	221	0.78
伊藤 藤 豊	220	0.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	220	0.78
住友生命保険相互会社	218	0.77
パークレイズバンクピーエルシー	179	0.63
パークレイズキャピタルセキュリティーズ	179	0.63
松 島 敏 雄	171	0.60

(5) 所有者別分布の状況（普通株式）



(注) 記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

サーモショット F30シリーズの発売について

当社グループでは、中期経営計画において赤外線事業を戦略的成長事業と位置付け、当社が有していた同事業を当社の子会社であるNEC Avio赤外線テクノロジー株式会社へ集約し、開発、製造、販売を一本化するともに海外駐在を設置するなどその計画の実現に向けて努めてまいりました。

そのような中、日本最小・最軽量の赤外線サーモグラフィをNEC Avio赤外線テクノロジー株式会社が発売いたしましたのでご紹介いたします。

赤外線サーモグラフィは、非接触で物の温度を測定できる特長を生かし、電子機器・電子部品の非接触温度測定、プラント設備や構造物の非破壊検査から最近では新型インフルエンザ対策として空港・港湾の検疫所に設置され、渡航者の人体表面温度のスクリーニング検査などにも使用されています。

今回ご紹介する「サーモショット F30シリーズ」は、『スタイリッシュ&コンパクト』をコンセプトとして、①「デジカメの様な使いやすいデザイン」、②「約300gの超軽量ボディ」、③「環境に配慮した単三型充電電池の採用」などを実現し、従来の赤外線サーモグラフィと異なりポケットに入れて、気軽に持ち運びができ、いつでもどこでも赤外線画像を撮ることができるようになりました。

同時に従来の赤外線サーモグラフィは熱画像の撮影にその特性等に関する専門的な知識が必要でしたが、フォーカスフリー、可視画像と熱画像の同時保存機能、アイコン操作の採用などにより、エントリーモデルとして初心者の方でも簡単に扱うことができる赤外線サーモグラフィとなっています。



サーモショット F30W



当社グループは、この新製品「サーモショット F30シリーズ」を、既存市場におけるシェア拡大の重点戦略製品と位置付けるとともに、熱ロス診断や排熱評価などの環境分野、安全安心に対するセキュリティ・防災市場、実験教材として学校分野、さらにはスポーツジム・エステなどの健康産業における血行評価用途など、より幅広く新しい市場・業種への拡販と応用分野の開拓を目指してまいります。

株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要のあるときはあらかじめ公告します。
- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 同 取 次 所 住友信託銀行株式会社本店および全国各支店
- 公 告 の 方 法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.avio.co.jp/ir/index.htm>

【株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について】

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて】

<買取請求>特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。

※単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取扱と異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。



〒141-0031 東京都品川区西五反田八丁目1番5号
TEL. 03-5436-0600 <http://www.avio.co.jp>

